

思いを声にのせて広報音声化・朗読ボランティアまつぼっくり

大田原市では、より多くの市民の方に情報を提供するため、平成24年5月から広報の音声化(デイジー 版広報の発行)を行っています。

今回は、そのデイジー版広報の作成を行っている朗読ボランティア「まつぼっくり」さん(以下、敬称略) を紹介します。

デイジーとは

デイジー(DAISY)とは、Dagital Accessible Information SYstem の略で、日本語では、「アクセシブル(ア クセスができる)情報システム」と訳されます。

視覚障がい者や普通の印刷物を読むことが困難な方々のために、デジタル録音図書の標準規格として 開発されました。

デイジー化された図書の主な特徴は、読みたい章や任意のページへ、いわゆる「飛ばし読み」ができる こと、そして、1枚のCDに40時間もの録音ができることです。

「まつぼっくり」では、デイジー図書を、会員の皆さんが自宅でパソコンに音 声を録音し、作成しています。

音声版「広報おおたわら」の提供は CD で行われており、専用の機械(プレクス トーク・右図参照)を使って再生することができます。

▶画像) プレクストーク プレクストークでは、録音されている内容のスピードを変えたり、 声の高低を変えたりすることができます。

🗱 朗読ボランティアまつぼっくり

「まつぼっくり」は、朗読を必要とする人々のための奉仕活動を目的に、昭和57年10月に発足したボ ランティアグループです。

素朴でおおらかで、手に取ればからからと音を立て、ふっと童心を思い出させてくれる「まつぼっくり」。 その名にふさわしく、気軽にどこへでもころころと種をまきながら、郷土に根付き、しっかりと枝葉 ◆を茂らせて活動を行っています。

▶画像)録音機材 音質を高めるデバイス(装置)をパソコンにつなぎ、 マイクで音声を取り込みます。



音声版「広報おおたわら」ができるまで

「まつぼっくり」では、広報紙の校了日(記事の校正の終了日)から約一週間で音声版「広報おおたわら」 を仕上げます。



市役所から原稿(読み 順を書いたもの)を受 け取る



(原稿のチェックと担 当決め)



下読みと読み方などの 下調べ



(担当者が自宅で行う)



音訳内容の校正 (モニターはまつぼっ くりのメンバーが 互いに担当する)



CD を作成し、 プレクストークで 確認する



市役所・社会福祉協議 会を通じて利用者へ

作業は、3つのグルー プに分かれ、グループ ごとに毎月の広報を交 互に担当しています。

これらの過程を経て、 大切に作られた1枚の 音声版広報は、平均で 約4時間の内容になっ ています。

インタビュー

自分の生活の中で、なにかできることはないかと思っていた時期に、音訳奉仕員養成講座の記事をみました。 講座を初級・中級と受講していくなかで、まつぼっくりに誘われ、人前で話すことが苦手な私は、自宅で録 音するのであればできるかなと思い、活動を始めました。

しかし、文字を音にする仕事は大変で、下読み(下調べ)をしていても、実際に声にすると「あれ?これはな んと読むんだっけ」と思うことがたくさんあります。小説などの音訳も、会話文の感情の微妙なさじ加減にい つも四苦八苦しています。

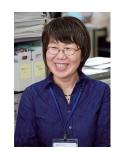
まつぼっくりのメンバーで、音訳講座の講師も行っている坂本清枝さんは、「目を閉じて聞いてみた?」とよ く仰います。原稿を見ながら聞けば分かるものでも、目を閉じて、声を聞くだけでわかるとは限りません。常に、 聞く人の気持ちになって読もうと心がけています。

できあがったCDを利用者の方に届けに行った際に、「これが楽しみなんだ」と喜んでもらえると、充実感や 達成感があって、やりがいを感じます。

「広報おおたわら」の音訳をはじめてから、メンバーの技術も向上したように思います。 ひとりひとりの読む機会も増えて、程よい緊張感があります。メンバーはみんな生き生き としていて、この活動を通して出会えて、本当にうれしく思います。

しかし、今、本当に情報を必要としている人のところまで、音声版の「広報おおたわら」 が行き届いているとは思えません。これからの高齢化社会の中で、視力が弱くなっていく けれど、情報はほしい、という方はたくさんいると思います。

私たちも、携わる喜びを感じながら、一生懸命、音訳をしています。もっと周りの方が 気づいて、声を上げて、たくさんの人が情報を手に入れられるようになればいいなと思い ますね。



朗読ボランティアまつぼっくり 会長 川尻 育代 さん

おわりに

誰が音声版広報を必要としているかどうかは、とてもデリケートな問題で、「まつぼっくり」からの アプローチは難しいのが現状です。

ぜひ、皆さんの周りで、音声版広報を必要としている方がいましたら、お気軽に下記までご連絡くだ さい。

問福祉課 東1階 四(23)8921



生まれ変わ る、学び舎。

大田原小学校・紫塚小学校建て替え工事

今年度から、木造校舎の老朽化 に伴い、大田原小学校および紫塚 小学校の校舎建て替え工事に着手

特に、大田原小学校では、昭和 10年建築・築80年という長い歴 史がある校舎を、解体工事前の7 月19日(日)に一般開放しますの で、別れを忍んでいただきたいと 思います。

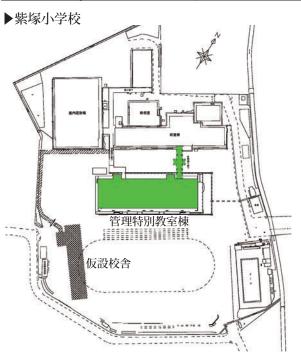
多くの子ども達が卒業していっ た学舎ですので、同級生や家族をお 誘い合わせの上、ご参加ください。



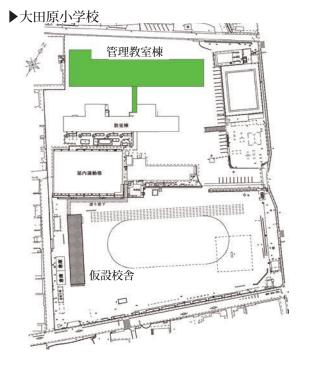
■大田原小学校および紫塚小学校木造校舎建替えスケジュール

工事に伴い、工事車両や騒音などにより近隣の方々にご迷惑をお掛けします。 ご理解ご協力お願いします。

	一般開放日時	仮設校舎建設期間	木造校舎解体期間	新校舎建設期間	新校舎備品設置期間
大田原小学校	7月19日(日)	5月19日~7月下	7月下旬~9月末	9月末~	平成 28 年 10 月~
	午前9時~午後4時	旬		平成 28 年 11 月末	12 月末
紫塚小学校		6月上旬~8月中旬	8月中旬~9月末	9月末~	平成 28 年 10 月~
				平成 28 年 9 月末	12 月末



緑 色…新設される校舎の位置と校舎の名称 網掛け…建替え期間中に建設される仮設校舎の位置



健康·福祉

大田原小学校沿革

■明治6年12月 那須郡大田原宿145番地に校舎を 建設し、大田原小学校と称し開校

- ■明治 23 年 8 月 大田原尋常小学校と改称
- ■明治 26 年 1 月 大田原尋常高等学校と改称
- ■昭和2年 校歌制定「君の恵みの大田原」
- ■昭和 10 年 11 月 第 6 校舎新築(現木造校舎)
- ■昭和 16 年 1 月 大田原町立国民学校と改称
- ■昭和 22 年 4 月 大田原小学校と改称
- ■昭和 28 年 8 月 プール建設 (創立 80 周年記念事業)
- ■昭和31年9月 西原小学校新設により一部分離
- ■昭和32年8月 紫塚小学校新設により一部分離
- ■昭和35年3月 鉄筋3階建校舎建設(現教室棟)
- ■昭和36年2月 現管理棟完成
- ■昭和37年3月 校歌・校章制定 「那須の大空雲晴れて」
- ■昭和38年1月 校旗樹立
- ■昭和48年11月 創立100周年
- ■昭和 48 年 4 月

言語教室·在宅訪問学級開設

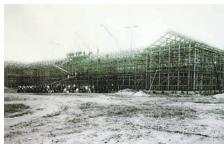
- ■昭和52年2月 屋内運動場新築
- ■昭和52年3月 管理棟2階増設
- ■昭和56年7月 プール新設
- ■昭和59年3月 給食室南側増築および 印刷室新築
- ■昭和 59 年 11 月 放送室新設および 校内テレビ放送開始
- ■平成8年4月 コンピュータ教室設置 (視聴覚室改修)
- ■平成12年3月 全天候型ソーラー屋外時計設置 (同窓会)
- ■平成13年4月 情緒障害特殊学級設置
- ■平成15年9月 創立130周年記念「炬火台」設置 (同窓会)
- ■**平成 18 年 3 月** 地域イントラネット敷設
- ■平成18年8月 アスベスト除去完了



▲ゆがみのあるガラスのはめられた木の 戸。換気窓は、紐で引くと開く仕組みに なっています。



▲昇降口を入ると、幅の広い階段が目に入ります。



▲木造校舎(第6校舎)の上棟式。 この校舎の建設をきっかけに、毎年、太 子祭が行われるようになりました。



■インタビュー ——未来を思いながら、過去を大切にする

初めてこの木造校舎を見たときは、こんなに古い校舎が現役で、ここで学んでいる子どもたちがいることに驚き、そして、木のぬくもりのある、いい校舎だと思いました。

しかし、校長として赴任してみると、いろいろな不便が見えてきました。造りの古さから使い勝手が悪く、隙間が多いので、特に冬は、外気と同じ気温の中で1日の生活をスタートします。掃除をするにも難しく、やはり、外から見るのと、実際に生活してみるのとでは大きな違いがあると感じました。

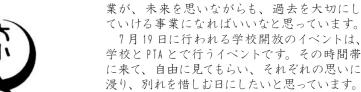
そして、建て替えの計画がスタートし、検討委員会で話し合いを重ね た結果、これから造られる校舎は、最先端の校舎になるのではと期待 しています。

大田原小学校の歴史を見ると、那須地区でも初期に建てられた学校で、かつての最先端を行っていました。そして、最先端だからこそ、今では一番古くなり、そこからまた、再出発をするのです。

学校を訪れる OB の方々は、建て替えに理解を示してくださる一方で、 やはり惜しむ気持ちがあり、かつての校舎の思い出をよく話されます。 建て替えに臨む校長として、この校舎の 80 年の歴史の中で学んできた 方々の気持ちを大切にしていきたいとも思っています。

計画当初から、校舎の一部分、特に、幅の広い階段や、ゆがみのあるガラスがはめられた木枠の窓、さまざまな寄贈物など、一部分をそのまま新しい校舎に残したいと考えていました。来た人がいつでも見られるような、記念物のスペースを設け、惜しむ方たちの気持ちに、少しでも応えられるような校舎にしていきたいです。

そして、新しいものの中に古いものを取り入れることで、この建替事



大田原市立大田原小学校 校長 山﨑 尚之 さん